

「自分らしく」男性として

性同一性障害・清水さん



清水慶人さん（右）と彩加さん＝徳島市の自宅

性同一性障害（GID）で女から男へ生まれ変わった徳島市在住の清水慶人さん（29）が、ネットでカミングアウトし、同じ障害に悩む人々を支援している。親への告白、手術、結婚……。自らの体験を赤裸々に語った動画は50本以上。活動を支えるのは「だけれども自分らしく生きられる社会に」という思いと、妻や母、仲間たちだ。

清水さんは8人姉妹の長女。母は主婦、父は会社員。幼少期から男の子と遊んで、安んじられた。大阪の夜の街へ行き、男性ホストとして働き、好きになるのは女子。高くGIDの女性に相談した。高校3年の時、GIDを取り上げたテレビドラマ「3年B組金八先生」を見て、「自分もこれだ」と確信した。ほっとGIDと診断された。教師だ

親へ告白・手術・結婚…動画で配信

つた父は性別を変えて生きる厳しさを語り、母の邦子さん（56）も「なぜ大変な人生を運ぶのか」と泣いた。

教員になる夢も断念にぶち当たった。採用試験を2度受けたが、女性として働くことへの迷いもあって落ち続けた。その間、学校で交通安全教育に携わる指導員として働き、お姉さん役と戸惑いつつも200万円を貯金、家族の理解も得て、21歳の夏、台湾で手術を受け、戸籍変更も果たした。

再出発後も試練は続く。ハローワークでは「性別変更者への職のあっせんは例がない」と言われ、自分で会社を探し回った。唯一理解してくれた登録に就職したが、本当にやりたいことを自問し、医療の道へ進むことを決意、兵庫県の専門学校で3年間勉強し、作業療法士の資格を得た。

徳島出身の妻の彩加さん（26）とは、この学校で知り合い、ほどなく婚約を打ち明けた。彩加さんは「性格が大事

だと思っていたので抵抗はなかった」といい、付き合い始めて1年後、母に事情を説明した。反対はされなかったが、父親に話したのは、結婚を決める直前、何度も遊びに来ていた清水さんをすっかり気に入っていた父は、驚きながらも承諾してくれた。

2012年5月に婚姻届を出した。動画サイトに結婚式の写真を投稿したところ、激励と共感のメールが多数寄せられた。「悩んでいる人がたくさんいることを知り、自分の経験が役立てばと思った」。彩加さんが贈るカメラの前で体験を語り、投稿を繰り返してきた。カミングアウトや手術、戸籍変更、体調管理の注意点など、実用的なアドバイスも人気をよんでいる。

今年8月にはネットなどで知り合った仲間らとNPO法人「ジャパンGIDフレンズ」(大阪府吹田市)を設立し、理事長に就任。関西と徳島でセミナーや家族会を重ねている。

いまはNPOで共に活動する邦子さんも「私にGIDの知識があれば、戸惑い悩むこともなかった。若い人たちの勢いと明るさで社会の偏見を吹き飛ばしてほしい」と応援している。

清水さんの講演会「自分らしく生きる」が10日午後2時から、徳島市山城町のときわプラザで開かれる。入場無料で参加自由。問い合わせ先はジャパンGIDフレンズ(メール＝japan.gid.friends@gmail.com)。無料託児室(0888-6666-4663)も入る。

病院で働く清水さんは「GIDであることを長い間なるべく隠してきた。まず自分自身がコンプレックスなどを取り払いたい」と話す。彩加さんは「彼は勉強熱心で行動力がある。人生を真剣に考えている部分にも影響される」という。

10日、徳島で講演